ホクコー リディア®NT 箱粒剤

■種 類 名：フルピリミン粒剤
■有効成分：フルピリミン---------- 2.0%
■化管法指定物質：ﾄﾘﾒﾁﾙ(ｵｸﾀﾃﾞｼﾙ)ｱﾝﾓﾆｳﾑの塩［第１種］------8.9%《8.3～9.6%》

■登録番号：第24503号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2021.03.10
■性　　状：淡褐色～褐色細粒
■有効年限：5年（担い手直送規格は2年）
■包　　装：1kg×12袋、10kg×1袋
40kg(担い手直送規格)

【特長】

- は種前・は種時～移植当日まで使用できる水稲用殺虫箱処理剤。
- 稲に育苗箱施用及び側条施用が可能。
- 新規の殺虫成分「フルピリミン」を含有し、水稲初期害虫、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウに高い効果を有する。既存の各種殺虫剤に感受性が低下した害虫にも有効である。
- ミツバチをはじめとする有用昆虫に影響が少ない。

【適用内容】（2024 年 11 月末日現在）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>フルピリミンを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>稲</td><td>イネドロオイムシ
イネミズゾウムシ
ニカメイチュウ</td><td>1 kg/10a</td><td>移植時</td><td rowspan="6">1 回</td><td>側条施用</td><td>3 回以内
（直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">稲
（箱育苗）</td><td rowspan="2">ウンカ類
ツマグロヨコバイ
イネドロオイムシ
イネミズゾウムシ</td><td rowspan="3">育苗箱
（30×60×3cm、
使用土壌約 5 ﾘｯﾄﾙ）
1 箱当り 50g</td><td>は種前</td><td>育苗箱の床土に均一に混和する。</td><td rowspan="5">3 回以内
（移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内）</td></tr>
<tr><td>は種時
（覆土前）
～移植当日</td><td rowspan="4">育苗箱の上から均一に散布する。</td></tr>
<tr><td>ニカメイチュウ
イナゴ類</td></tr>
<tr><td>フタオビコヤガ
イネヒメハモグリバエ
イネカラバエ
イネツトムシ</td><td rowspan="2">移植 3 日前～
移植当日</td></tr>
<tr><td>ウンカ類
ツマグロヨコバイ
イネドロオイムシ
イネミズゾウムシ
ニカメイチュウ
フタオビコヤガ
イナゴ類
イネヒメハモグリバエ
イネカラバエ
イネツトムシ</td><td>高密度に
は種する場合は
1 kg/10a
（育苗箱
（30×60×3cm、
使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ）
1 箱当り50～100g）</td></tr>
</table>

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ◆ 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - ◆ 移植後は湛水状態（湛水深３～５cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - ◆ 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - ◆ 山土、畑土などを使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - ◆ 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - ◆ 粒剤が破砕されるような過度な混和はさけること。
- 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ◆ 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
  - ◆ 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。

◆ 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
◆ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
◆ 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
◆ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深３～５ ㎝）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
◆ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
◆ 育苗箱（30×60×3㎝、使用土壌約５㌔）１箱当りに乾籾として２００から３００g 程度を高密度には種する場合は、１０a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が１kg/１０a までとなるよう、育苗箱１箱当りの薬量を５０から１００g までの範囲で調整すること。

● 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
● 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
● 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
● 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

❖ 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
❖ 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。